

一般質問



県道鳥羽磯部線の道路拡幅について

のむら やすお

野村 保夫 議員 自民党県議団／伊勢市・鳥羽市選出



問

県道鳥羽磯部線は、鳥羽市南部の住民の多くが利用する道路ですが、幅が狭く、カーブが連続しています。渋滞緩和や安全走行のため、拡幅する必要がありますが、沿道住宅等を考慮すると、新たなバイパス整備が必要と考えます。県の考えをお聞かせください。

答

現在、鳥羽市松尾町地内で現道拡幅を実施している区間は、令和10年度の完成を目指しています。隣接する国道167号までの未改良区間については、沿道住宅への影響等からバイパスによる整備が有効と考えています。しかし、道路整備予算には限りがあるため、まず現道拡幅区間の工事を着実に進めるとともに、令和7年6月に閣議決定された第1次国土強靱化実施中期計画を踏まえ、予算の確保に努めます。

その他の質問事項

- 伊勢湾口道路、東海南海連絡道の必要性について
- 練習船鳥羽丸との連携について ほか



公共水域の適正管理のために

なか じま とし き

中嶋 年規 議員 自由民主党／志摩市選出



問

令和5年2月の一般質問で、公共水域における放置船の解消や対策を強化する条例制定を提言した際、県当局からは、条例の必要性についてさまざまな面から検討すると答弁がありました。放置された廃船による航行障害等の諸課題を解消するための、条例制定に向けた検討状況をお伺いします。

答

浜島港周辺海域の放置船については、港湾区域は令和8年度に行政代執行等で撤去予定ですが、一般海域は抛り所となる法令がなく、撤去ができない状況です。このため、一般海域の放置船対策を推進するための条例制定に向け、有識者で構成する検討会を設置して議論を進めており、令和7年12月の常任委員会で条例の概要を提示する予定です。この条例制定により、一般海域を含めた海域の放置船の解消に、しっかりと努めていきます。

その他の質問事項

- 三重県誕生150周年記念事業
- こども・若者の自殺防止対策の強化を ほか



路面下空洞調査の実施について

いま い とも ひろ

今井 智広 議員 公明党／津市選出



問

道路陥没は全国で年間約10,000件発生しており、その内、都道府県管理道路は約1,000件です。陥没を未然に防ぐためには、見えない道路の下の状況を調査する必要があります。県管理道路について、特に重要な幹線道路では路面下空洞調査を実施すべきと考えますがいかがですか。

答

県では、これまで日常のパトロール等を通じて、道路の損傷の把握に努めており、路面下空洞調査は実施していません。しかし、埼玉県八潮市の大規模な陥没事故を受け、調査の必要性が高まっていると認識しています。県管理道路の総延長は約3,400kmあり、予算の制約から全ての県管理道路を調査することは困難ですが、交通量、埋設管の有無、緊急輸送道路であるか等の観点から優先区間を選定した上で、試行的に調査を実施していきます。

その他の質問事項

- 県営住宅における空き住居修繕のスピードアップを！



地域におけるバス路線の維持・確保について

くら もと たか ひろ

倉本 崇弘 議員 草莽／桑名市・桑名郡選出



問

公共交通は地域社会の基盤です。中でも、日常生活を支えるバス路線の維持・確保のためには、主要地域を結ぶ幹線については県が、主要地域と各地域を結ぶ支線は市町が主体となり、県と市町が役割分担しながら連携して取り組むことが重要です。県の公共交通に対する考え方をお伺いします。

答

路線バスが地域の公共交通ネットワークを担い続けるためには、幹線と支線の機能に応じて県と市町が役割分担し、利便性向上や運行効率化を進めることが重要です。県は、幹線の43路線の運行経費補助により路線維持を図っている他、市町が支線で路線バスからデマンド交通へ転換等する際には、国とともに伴走支援や財政支援を行っています。引き続き地域一体で取り組みを進め、今後は市町の専門人材育成等への支援も強化します。

その他の質問事項

- 物価高騰対策等について
- 県立中高一貫校について ほか



老朽化した海岸堤防の整備・改修の加速

むら ばやし さとし

村林 聡 議員 自由民主党／度会郡選出



問

県内の海岸堤防の多くは伊勢湾台風を機に作られ、老朽化しています。県は重点区域を定めて整備を進めていますが、年間進捗は数百メートルとわずかです。このまま南海トラフ巨大地震が発生すれば、行政の不作为を問われかねず、市町を含め県全体の予算確保が必要と考えますがいかがですか。

答

海岸堤防の整備には、地震、高潮・浸食、津波対策を合わせて約4,000億円と多大な費用が必要です。予算確保に向け、あらゆる機会を通じて責任を持って国に働きかけるとともに、令和7年6月に閣議決定された第1次国土強靱化実施中期計画の予算も活用し、海岸事業を推進します。また、各海岸管理者で構成する三重県海岸堤防連絡調整会議を活用し、管理者間の連携をより強化します。

その他の質問事項

- 被災後も住み続けるには速やかな復旧が必要
- 県立高校存在意義の自己否定 ほか



拠点滞在型観光の取り組みについて

なか せ のぶ ゆき

中瀬 信之 議員 新政みえ／度会郡選出



問

県南部地域は文化・歴史・豊かな自然に恵まれ、神宮や熊野古道など、世界に誇れる魅力のある地域です。県の中期戦略計画「みえ元気プラン」で観光政策の柱に掲げている「拠点滞在型観光」の取り組み、観光客の満足度を上げるための「観光インフラ」の中で今後重要と考える整備を伺います。

答

旅行者に地域の魅力に触れてもらうためには、宿泊日数を増やすことが重要だと考えています。このため、市町やDMO（観光地域づくり法人）等による地域ならではの観光資源を生かした旅行商品造成の支援などにより滞在価値の創出を図るとともに、上質な宿泊施設の誘致や客室の和洋室化等の観光インフラ整備を支援するほか、観光情報も発信しています。今後も旅行者に長く県内に滞在していただけるよう取り組みます。

その他の質問事項

- 高齢者政策について
- 津波避難タワーの利活用について ほか